

議 事 録

件 名	第 32 回 セーフコミュニティ学校安全対策委員会	
日 時	令和 7 年 6 月 16 日（月）14：00～15：00	
場 所	市庁舎 17 階会議室	
出席者	委 員	内田委員長、広津副委員長、平原委員、松田委員、綾部委員、西田委員 土井委員、山浦委員、高橋委員、柳委員、原委員、下川委員
	事 務 局	（学校教育課）松澤主任、櫻井、松田 （安全安心推進課）山下主幹、新村補佐
欠 席 者	吉富委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 開会 2. 協議事項 （1）2024(令和 6)年度実績及び 2025(令和 7)年度取組方針(案)について （2）セーフコミュニティの次期国際認証について （3）みんなでセーフコミュニティ賞について （4）インスタグラムを活用した情報発信について 3. その他 （1）令和 7 年度セーフコミュニティ会議等スケジュール(案) （2）SC 標語募集について 4. 閉会	
質 疑	1. 開会 ・事務局より開会 ・傍聴者の確認「なし」 2. 協議事項 <u>（1）2024(令和 6)年度取組実績及び 2025(令和 7)年度取組方針(案)について</u>	
委 員 ①	6 ページ（3－④）の「地域や PTA 等との協力による校区安全マップの作成」について、改善点に「実効性のある安全マップの作成」が挙げられているが、これが市内全校で行われているのか、一部だとしたらどのくらい普及しているのか。また、完成したマップの公開範囲について、自転車や車を運転する地域の大人も知ったほうがいいと思うので、そのような取組が行われているのか。	
事 務 局	安全マップについて、全ての学校に直接行って確認したわけではないが、学校へのアンケートでは「作成している」との回答を得ている。河川や土砂災害の危険個所などを注意喚起する形で分かりやすく掲示している学校もある。 公開については、全ての学校ではないが、子どもたちや保護者、コミュニティセンターに配布している事例もある。	
委 員 ①	（意見）学校とコミュニティセンターと連携していくのはどうか。 回覧板で周知することもよいと思う。	

委 員 ②	3 ページ（3－①）の「安全に過ごす意識付けと実践化」について、意識付けは重要だが、老朽化した施設があり、修繕依頼を出しても中々修理してもらえないことがある。例えば、壊れたシャッターを開けっ放しにし、そこを金具で固定している状態が続いているため、金具が腐食して落ちてきた場合の危険性を考えると、シャッターを撤去するほうがいいのではと思う場所がある。 子どもたちに「危ないから気をつけよう」と伝えることも重要だが、物理的な支障がある場所については、予算を確保して早めに対処してほしいと思う。 また、市内の学校では昨年の夏頃に高温でタイルが膨張して割れ、カラーコーンが置かれたまま約 1 年が経っている。特に子どもたちがよく通る場所で、つまずきの原因になる可能性があるため、意識付けだけでなく、物理的な環境整備も重要だと思う。
委 員 長	ハード面の整備、怪我をしない物理的な環境整備が必要なので、学校施設課と連携していく必要がある。
委 員 長	全体としては、セーフコミュニティの取組を始めてから怪我の発生件数は大きく減少しており、各項目についても各学校の実情に応じて取り組んでいる。 この 5 つの観点から、学校が継続して取り組んでいくことでよい。
委 員	同意。
<u>（2）セーフコミュニティの次期国際認証について</u>	
委 員 長	国際認証を継続するかどうかという点について、アンケートの趣旨は継続すべきかどうか、それとも継続することを前提に改善点を聞くのか、どちらの立場なのか。
安全安心推進課	アンケートの趣旨としては、認証が必要なのか不要であるのかを問 4 で質問しているため、継続することが前提ではない。必要だと考えた場合、改善すべき点などを記載することは可能である。
委 員 長	令和 8 年度の対応方針決定に向けた意見収集のためのアンケートであることを理解し、その趣旨で回答するように促す。
<u>（3）みんなでセーフコミュニティ賞について</u>	
委 員 ③	この賞は今年度から始まるのか。どのような団体が受賞対象となるのか、具体的なイメージを教えてほしい。

安全安心推進課	今年度から開始する。対象としては、10 ページの重点取組分野・項目に該当する活動をしている対策委員会以外の市民や団体になる。具体的なイメージとしては、各校区にいらっしゃる長年見守り活動をしている方などが挙げられる。あまり固く考えずに推薦してほしい。
委 員 長	周知の方法はいかがか。
安全安心推進課	10 月の認定後、12 月の表彰式に合わせて取組内容を紹介する。ホームページやインスタグラムでも紹介する予定である。
	<u>(4) インスタグラムを活用した情報発信について</u>
委 員 ④	なぜ、インスタグラムで情報発信しているのか。
安全安心推進課	セーフコミュニティの認知度が低いという課題があり、特に若い世代には広報紙だけでは情報が届きにくいため、若い世代が見ているであろうインスタグラムを活用して情報発信を始めた。
委 員 ⑤	一番閲覧数が多い動画はどのくらい閲覧されているか。
安全安心推進課	久留米商業高校の生徒が出演している「恋する 2 人 デート DV ってなに？」という動画が、現在 6,000 件以上と最も閲覧数が多い。
委 員 ⑥	なぜ、この動画の閲覧数が多いのか。
安全安心推進課	生徒たちが、自分たちが出演していることを口コミや SNS で拡散してくれたことが大きいと考える。
委 員 長	口コミが大事なので、引き続き協力をお願いする。認知度拡大のための取組として、特に若い世代に向けてインスタグラムを活用していることに協力をお願いする。
	<u>3. その他</u>
安全安心推進課	次回の 10 月の対策委員会では、「みんなでセーフコミュニティ賞」の集計結果や国際認証に関するアンケート結果を紹介したいと考えている。
	<u>4. 閉会</u>